

ハイテク技術で事故はなくなるか

「モービルアイ」「VasMap」など ダンプ安全対策最前線を見る



フロントガラスにカメラを取り付けます。大型車の死角をフォローするためには、センサーを車両の各部に取り付けるなど今後改良が求められます。



組合員の事故で半数以上を占めるのが追突事故。モービルアイは車間距離を表示し短くなると警報音で知らせる設定も。

自動車の自動運転が数年後には実現しようとしています。技術の進歩によって車両の安全対策も進んでいます。

公共工事では、ダンプなど工事関係車両の安全対策に積極的に取り組むことが建設業者の高評価につながるため、この数年ハイテク技術を応用した対策が加速しています。

いまゼネコン業界が導入を進めようとしているシステムを紹介しましょう。

「モービルアイ」による衝突防止対策

「モービルアイ」は車両フロントガラスに取り付けたカメラが前方の車両・バイク・歩行者・自転車・車線を検知。その距離と速度に基づき計算された「衝突するまでの時間」を計測し、ダッシュボードに取り付けたモニターによるアイコン表示と警報音で危険を警告するシステムです。

ほとんどの車両に後付けが可能で、大型車の場合約二十万円(工賃込)で販売されています。

車両事故の四割近くを占めるのが追突事故です。人身事故の罰金は高額化しており、組合員の事例を見ても四〇万〜五〇万は珍しくありません。免許停止や賠償費用(保険料割増)等考慮すると、検討に値するシステムです。しかし、一部新型車に装着されている

「自動ブレーキシステム」とは異なるため、運転者に適切な反射神経、反応動作が求められます。

「VasMap」による安全運行支援

「VasMap」はスマートフォンを利用した安全運行支援システムです。ダッシュボードの上にスマホを設置し、工事事務所などのパソコンで車両の位置を管理します。

国交省が進める情報化施工の一環として普及が進んでいます。

運行経路上の歩行者や危険個所などの情報を収集し運転者にリアルタイムで指示を出し事故防止につながるのとともに効率的な運行、燃費、速度管理、さら

に台貨に連動して積載量も自動記録でき、過積載防止にも利用できるシステムです。労働強化につながる側面も。

「若者が魅力を感じる業界にしたいです」

組合員梅田賢一さん(35歳)

世代交代の進まないダンプ業界。圧倒的多数を占める中高年労働者のなかで奮闘する若手ダンプ労働者を紹介します。

「最初は運送会社に入りトラックに乗りました。大きな会社で安定していましたが、親父がダンプに乗っているのが二十一歳のとき退職して親父と仕事をやるようになりました」

「ところが六年目に大きな事故を起こしてしまいました。先輩に組合を紹介してもらい一緒に警察の『意見の聴取』に行ってもらいました。免許取消しは免れ組合の大切さを実感



ダンプ業界の未来を語る梅田さん

しました」。

「いまグループを作って仕事をしています。上は七〇代から六〇代五〇代と幅広い年齢層でつくるグループです。私が一番年下ですが、親会社からの指示をみんなに伝えて安全に仕事ができるように取り

組んでいます。世代が違う人と仕事をすることで自分も勉強になります。みんなで協力して仕事を完了させることのやりがいを感じるようになってきました。もっと若い人に魅力のあるダンプ業界にしたいですね」

「お店紹介」植田由利子さん 「愛犬のためのお店はじめました」



愛犬家のみなさん。近くに来たときはお立ち寄りください

植田さんは犬のアクセサリー、トリミング、宿泊まで対応できるペットショップ「May & Co」を開業しました。

いまやペットは家族同然。植田さんはペットへの愛情接客を基本にしつつ低価格化も実現。衛生管理も万全を期した明るいお店でお待ちしています。

足利市五十部町五〇二・一 シオンレジデンス一階 電話〇二八四・六四・七七一一

「自民、公明両党による二代にわたる都政を刷新する」。都知事選も四野党共闘が決定。現時点(二二日)では候補者は未定ですが、連合がなんと言おうと再び「脱原発」を掲げる候補を!